資料４

保育の質の向上にかかる評価の構造 No.1

保育の計画 → 保育課程の編成 —
- 各保育所の方針や目標
- ０歳から６歳までの子どもの育ちの見通し
- 発達過程に即したねらい・内容
- 養護と教育の一体的展開

子育て支援等
（保護者・地域）

指導計画の作成

保育実践

環境を通して行う保育
- 生活・遊びを通して総合的に行う保育・養護と教育の一体性
- 子どもの実態把握・具体的なねらい・内容、環境構成・援助　等
- （年齢別保育・異年齢保育・障害児保育・長時間保育等）

記録・反省　保育の過程を振り返り、子ども一人一人・子ども相互の関係等、発達過程等に配慮した保育を省察し、次の計画に生かす。

保育士等の自己評価
- 子どもの育ちを捉える視点（個々の育ち・環境との関わり・関係性の育ち等）
- 自らの保育を捉える視点（子ども理解、ねらい・内容の達成状況、環境構成、援助・職員の連携等）
- 課題に基づく評価の観点を捉え、評価項目を設定し、自ら評価する

職員同士の相互理解
カンファレンス・研修

個々の自己評価を踏まえて保育所の課題を明確にする
保育所の課題についての共通理解と課題認識をもつ
課題への着目・取組方法等についての協議・決定

公　表

保育所の自己評価
- 保育所全体で重点的に取り組む課題＝重点項目
- 保育内容全般にわたる現状の客観的検証＝標準項目

外部評価
第三者評価

保育課程の再編・保育の計画の見直し

保育の質の向上にかかる評価の構造

No.2

保育課程

誕生から就学までの発達過程と経験の見通し

保育所の保育理念・保育方針・保育目標

↓

指導計画 ← **保育の改善** ←

計画をもとに見通しをもった実践　　質の向上

養護と教育の一体的展開

↓

保育実践

理解　・　援助　・　省察

（捉える）（かかわる）（振り返る）

・子どもの経験と育ち（変容）を見つめる

・子ども理解を深める

・ねらいと内容の展開を捉える

保育所の自己評価

取り組むプロセス・職員の連携

↑

保育所全体で取り組む重点項目　←→　保育内容全般にわたる検証

↑　指標の設定　　第三者評価項目に即した評価

保育所で特に重視する課題

↑

保育記録

↓

保育を捉える観点→

評価の視点 →

カンファレンス・所内研修

（共通理解・共通認識）

保育の理念・目標・内容・方法

・子どもの何をどのように育てていくか　←

・保育環境をどう構成していくか

・職員の連携によりどのように取り組んでいくか等

保育所の組織性

保育所の創意工夫

保育所の独自性・特色

子ども観・保育観等

保育士等の自己評価

子どもの育ちを捉える視点

自らの保育を捉える視点

公　表